

障がい学生のための



災害時対応 ハンドブック



はじめに

日本は、世界の中でも地震をはじめとする自然災害が発生しやすい国です。障がいのある学生（以下、「障がい学生」）にとって、災害時にどのような困難が生じるのかについて日頃から考え、備えておくことは大変重要です。

明治大学にいる時に災害が発生した際の行動や連絡手段、情報収集については、「明治大学防災ガイド」（P.13 参照）で知ることができますが、このハンドブックでは障がい学生に焦点を当て、学生ごとの避難計画書の作成、緊急時の行動、普段からの備えについて記載しています。

また、障がいのない学生や教職員の方々にも本ハンドブックに目を通していただくことで、いざという時に、身近にいる障がい学生の手助けをしていただく際の一助となれば幸いです。

★障がい学生支援については、『明治大学生のための障がい学生支援あんない』をご確認ください。



目次

01	障がい学生の個別避難計画書 個別避難計画書とは？……………3 個別避難計画書 作成の流れ……………4 個別避難計画書（例）……………5
02	普段からの備え <障がい学生向け> ……………6
03	災害発生から一時避難の支援 <周囲の人向け> ……………8
04	明治大学 バリアフリーマップ ……………10
05	明治大学の防災への取組 ……………14

個別避難計画書とは？

災害が発生した時、高齢者や障がいのある人がどのような支援を受けて避難するのかについて、一人一人の状況に合わせて予め確認しておくことは、緊急時にそうした人々の身を守ることに繋がります。これを事前にまとめたものが個別避難計画書です。同計画書の作成の必要性については、「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」（2013年 内閣府）に示されています。その後、2021年の「災害対策基本法」の一部改正により、避難にあたって支援が必要な住民の個別避難計画書の作成が市町村の努力義務とされ、「誰一人取り残さない*1」防災の実現への大きな一歩となりました。

障がい学生が通学する大学における災害時対策の重要性については、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第三次まとめ）」でも言及されています。明治大学においても、障がい学生が被災した時にすみやかに避難することができるための取組を進めており、その一環として、障がいの特徴や避難方法を記載した個別避難計画書の作成や、必要に応じ同計画書に基づいた避難訓練を行います。

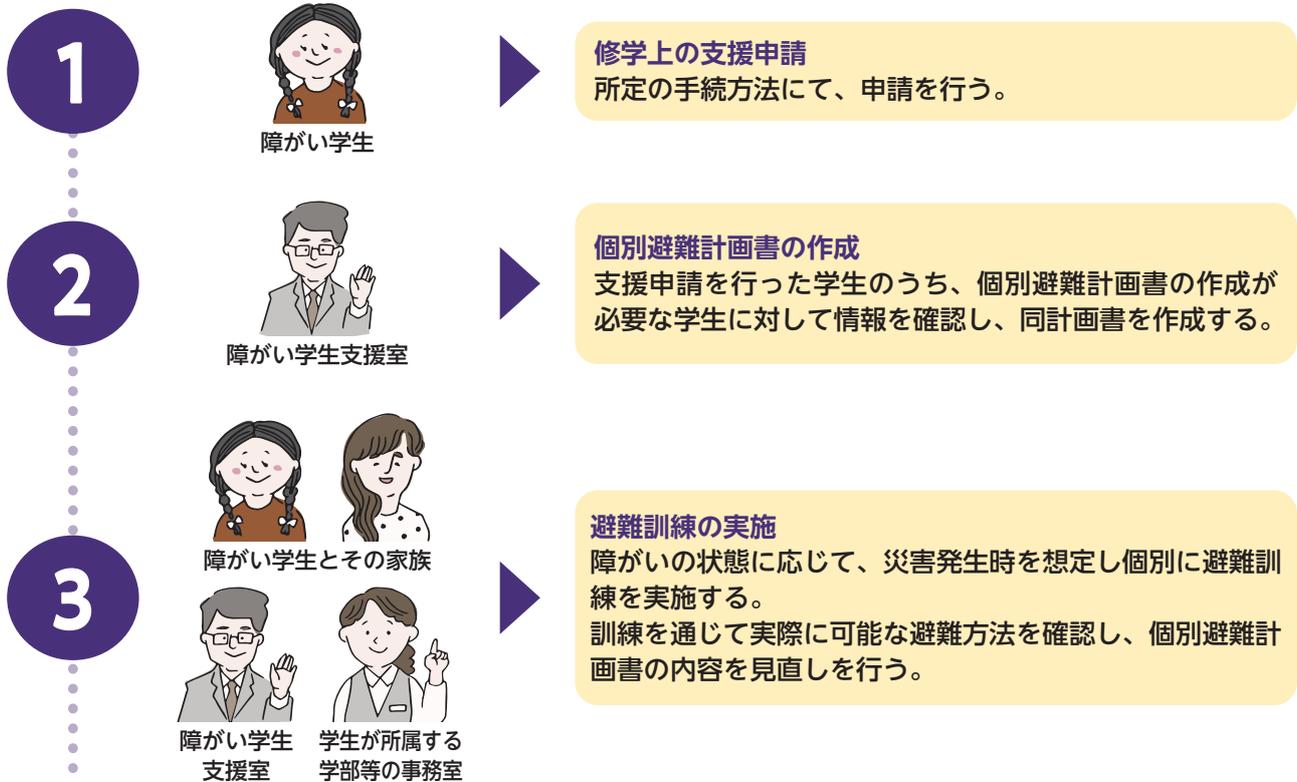
障がい学生はこの個別避難計画書を携帯し、災害発生時には自分で確認し落ち着いて行動する、あるいは周囲の人に見せることにより協力を得て、一時避難を行うことができます。



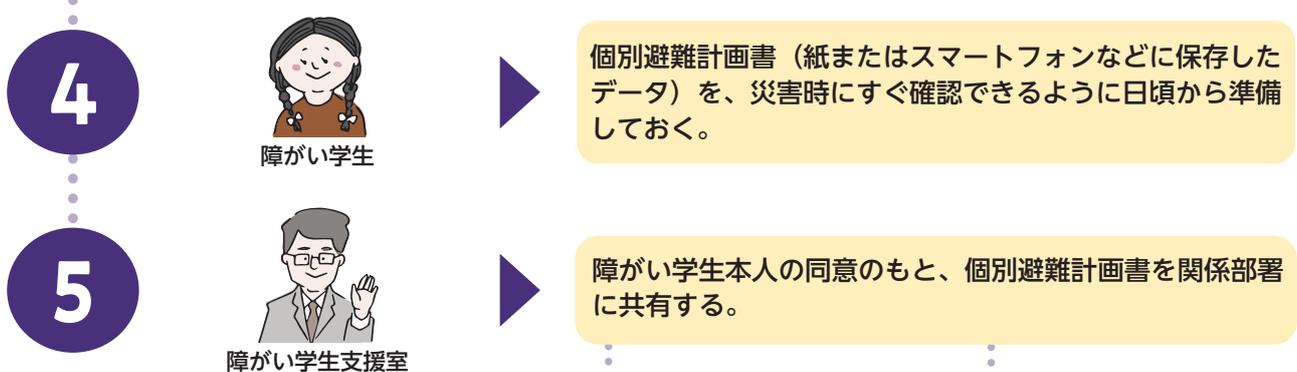
*1 持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)のスローガン。

個別避難計画書 作成の流れ

個別避難計画書は、障がいや理由に修学上の支援申請を行った学生のうち、障がい学生支援室において同計画書の必要性があると判断した学生について作成します。



個別避難計画書の完成



●学部等事務室

必要に応じて、障がい学生が履修する授業の担当教員に個別避難計画書を共有する。

●授業担当教員

個別避難計画書が共有された場合には、災害時の対応を確認しておく。

●防災担当部署

障がい学生の状況を把握し、災害時の対応や防災訓練について、障がい学生支援室と連携して行う。

Point

障がい学生の症状や意思を尊重しながら、実現可能な支援方法について、学生と大学がともに考え、決定します。



個別避難計画書（例）

個別避難計画書

作成日 ××××/××/××

氏名	明治 花子	学生番号	9999999999		
所属 学部／研究科	〇〇学部	学年	3	通学 キャンパス	駿河台
●障がいの特徴と留意点					
・視力が極めて弱く、人の流れや、周囲で発生している危険等を視覚的に把握することが難しい。 ・段差等がある場所や初めて行く場所を、一人でスムーズに歩くことが難しい。					
●災害時の移動について					
避難方法	歩いて避難する。				
支援して もらいたいこと、 必要な人数	誘導する人：1人				
支援における 注意点	誘導する前に、声をかけてもらえるとありがたいです。 手や衣服を急に引っ張られたり、後ろから押されたりすると、驚いたり転倒したりする恐れがあるためです。				
一時避難の手順	① 支援者は、誘導する前に、どのようなルートで、どこへ避難するのかについて、明治さんに口頭で伝える。 ② 支援者の肘の上あたり、もしくは肩に、明治さんにつかまってもらう。 ③ 支援者は、明治さんの半歩ほど前を歩き、足元の段差や障害物、危険な場所等について知らせながら誘導する。				

※授業担当教員への情報共有：はい

●個別避難計画書に関する注意事項（障がい学生向け）

本計画書は、緊急時にも速やかに確認できるよう、スマートフォン等にデータを保存しておくとともに、紙に印刷して携帯してください。また、いざという時に落ち着いて行動できるよう、日頃から避難の手順を確認しておくことも大切です。

災害が発生した時は、まずは身の安全を確保してください。次に本計画書を確認し、必要に応じて周囲の人に本計画書を見せて支援を求め、落ち着いて避難するようにしましょう。

●避難のサポートをしてくださる方へのお願い

本計画書には、障がいのある学生が明治大学内で災害に遭った際に、一時避難場所へ移動するための方法や、サポートに必要な人数などが記載されています。

サポートをしてくださる方は、ご自身の安全を確保した上で、「災害時の移動について」のとおり避難ができるよう、支援をお願いいたします。

明治大学 障がい学生支援室

02

普段からの備え ＜障がい学生向け＞

ここでは、障がい学生が日常生活で意識しておくことについて紹介します。

ここに記載されていることがすべてではありませんので、日頃から自分の状態・症状について理解を深め、どのような準備をしておけばよいか、考えておきましょう。



共通

- ・避難にあたって支援が必要な場合は、誰に、どのように依頼するのかを想定しておく。
- ・安全な避難ルートを確認しておく。特に、避難する際は階段を使うことを念頭におき、普段利用している建物内の階段の位置を確認しておく。
- ・緊急時の連絡先と連絡手段を予め決めておく。非常時には通信の遮断が起きることも想定し、手段は複数確保しておくことが望ましい。
- ・無理のない範囲で、自分の障がいや症状について身近な人に話し、非常時に必要な支援について知ってもらう。
- ・自分の障がいを示すマーク *2 を身に着ける、または必要な時に見せられるよう携帯しておく。
- ・大学から自宅への帰宅方法について、家族や友人と日頃から話し合っておく。

視覚障がい

- ・誘導の支援が必要な場合は、誰に、どのように依頼するのかを想定しておく。
- ・日頃から自身の状態を周囲に伝えておき、掲示などの視覚情報を音情報で得られるようにする。また、危険な状況を視覚的に確認することが難しい場合は、状況を音声で伝えてもらうようにする。

聴覚障がい

- ・筆談するためのペン・メモ帳など、周囲とのコミュニケーションツールを準備しておく。
- ・補聴器や人工内耳を装用している場合は、充電器や予備の電池を携帯しておく。
- ・日頃から自身の状態を周囲に伝えておき、避難指示などの情報を視覚的に得られるようにする。

*2 障がいのある方に関するマークについては、東京都福祉局ホームページにて紹介されています。

https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shougai/shougai_shisaku/mark.html



肢体不自由

- ・車いすを使用している場合は、その重さやたたみ方、持ち方などの情報について、周囲の人に伝えられるよう把握しておく。
- ・誘導が必要な場合は、誰に、どのように依頼するのかを想定しておく。
- ・避難に必要な器具がある場合は、どのように確保するのかを確認しておく。
- ・身体を抱えてもらう、あるいは担架に移乗するなどして避難する場合、身体の痛みや骨・関節の弱いところなど、注意することはないか主治医と確認し、周囲に正しく伝えられるようにする。

病弱・虚弱

- ・常用している薬や治療食など、携帯しておいた方がよいものや災害時の対応について、予め主治医と相談して決めておく。
- ・体調により、自力で長時間移動することが難しい場合は、自分が移動にどの程度の時間を要するのかを確認しておき、周囲に移動支援を依頼することも想定しておく。

精神障がい

- ・災害時に落ち着いて行動できるよう、災害時の行動について日頃から確認しておく。特に、災害時は先の見通しが立ちにくい状況となることを踏まえておく。
- ・自分自身がどのような場面で心身にストレスを感じるのかを踏まえ、災害時の対応について、主治医と相談して決めておく。
- ・非常時に周囲の助けが必要な場合に、支援してもらいたいことを文字でも伝えられるよう、メモなどに書き留めておく。
- ・常用している薬について、災害時の対応を主治医と相談して決めておく。

発達障がい

- ・災害時に落ち着いて行動できるよう、災害時の行動について日頃から確認しておく。特に、災害時は先の見通しが立ちにくい状況となることを踏まえておく。
- ・避難指示は音声によるものが多くなるため、音情報の認識を苦手とする場合は、周囲の人に尋ねることを念頭に置いておく。
- ・大きな音や人混みに晒される可能性が大きいことから、感覚過敏の症状がある場合は、ノイズキャンセリングイヤホンやサングラスなど、心身のストレスを軽減するものを携帯しておく。
- ・非常時に周囲に支援してもらいたいことは、文字でも伝えられるようメモなどに書き留めておく。

03

災害発生から一時避難の支援

<周囲の人向け>

災害が発生した時に、障がいのある人にどのような困難が生じ、支援を必要としているのかについて、一般的な例を記載します。ただし、災害時は自身の安全を確保した上で支援することを忘れないようにしてください。



視覚障がい

- 周囲の状況が見えない・見えにくいいため、音声情報により状況把握をする必要がある。
- 安全な場所に避難する際は、個別の誘導が必要な場合がある。

支援のポイント

- 声かけが必要な場合には、本人の近くまで行き、大きな声ではっきり伝える。
- 誘導する際には、本人に確認の上、誘導者の肘や肩につかまってもらう。
- 障害物や段差など、周囲の状況を伝えながら歩く。

聴覚障がい

- 音声による避難指示や非常ベルが聞こえない・聞こえにくいいため、文字などの視覚情報により状況把握をする必要がある。

支援のポイント

- どのような災害が発生しているのか、また、どこに避難すればよいのかについて、黒板やノートなどに簡潔に書いて見せる。

肢体不自由

- 混雑中での移動、障害物がある場所での歩行が困難な場合がある。
- 階段の上り下りを、自力で行うことができない。

支援のポイント

- 歩行が難しい人に対しては、本人にどのような支援が必要か確認し、誘導するなどの対応を行う。
- 車いすを使用している人が階段を使って避難する場合は、どのように避難するのかについて本人に確認する。特に車いすの持ち方、本人の身体を持ち上げるなどの介助方法は、必ず本人に確認してから行う。

病弱・虚弱

- 外見から症状が見えにくく、どのような困りごとがあるかわかりにくい。
- 服薬できない状況が長くなると、疾患による発作等が起こる可能性がある。

支援のポイント

- 本人に、何に困っているのか尋ねる。ヘルプカードを持っていれば、緊急時の医療情報や支援方法を確認する。
- 長時間歩くことが難しい人がいたら、本人に支援方法を聞き、ゆっくり歩いて誘導する。

精神障がい

- 日常と異なる環境下では普段以上に大きなストレスがかかり、強い不安に襲われてパニックになることがある。
- 音声による避難指示や非常ベルなどの大きな音や多くの人が集まる場所を苦手とし、緊張状態が続いて体調不良になることがある。

支援のポイント

- パニックになったり、動揺している人がいたら、その症状を否定せず、見守る。
- 状況を可能な限りわかりやすく、簡潔に伝える（状況を知ることが不安の解消につながることもある）。

発達障がい

- 情報を整理することが難しく、スムーズに行動することが難しいことがある。
- 口頭での指示内容の理解が困難なことがある。
- 聴覚過敏の症状がある場合、サイレンや校内アナウンスなどの大きな音や人の声質に強い不快感を感じ、体調不良になることがある。

支援のポイント

- パニックになったり、動揺している人がいたら、その症状を否定せず、見守る。
- 避難行動をとることが難しい人がいたら、何に困っているのか簡潔に尋ねる。
- 感覚過敏がある場合は、本人がノイズキャンセリングイヤホンなどを携帯していることがあるため、装着を促す。

04 明治大学 バリアフリーマップ

駿河台キャンパス



生田キャンパス



中野キャンパス

凡例



エレベータ

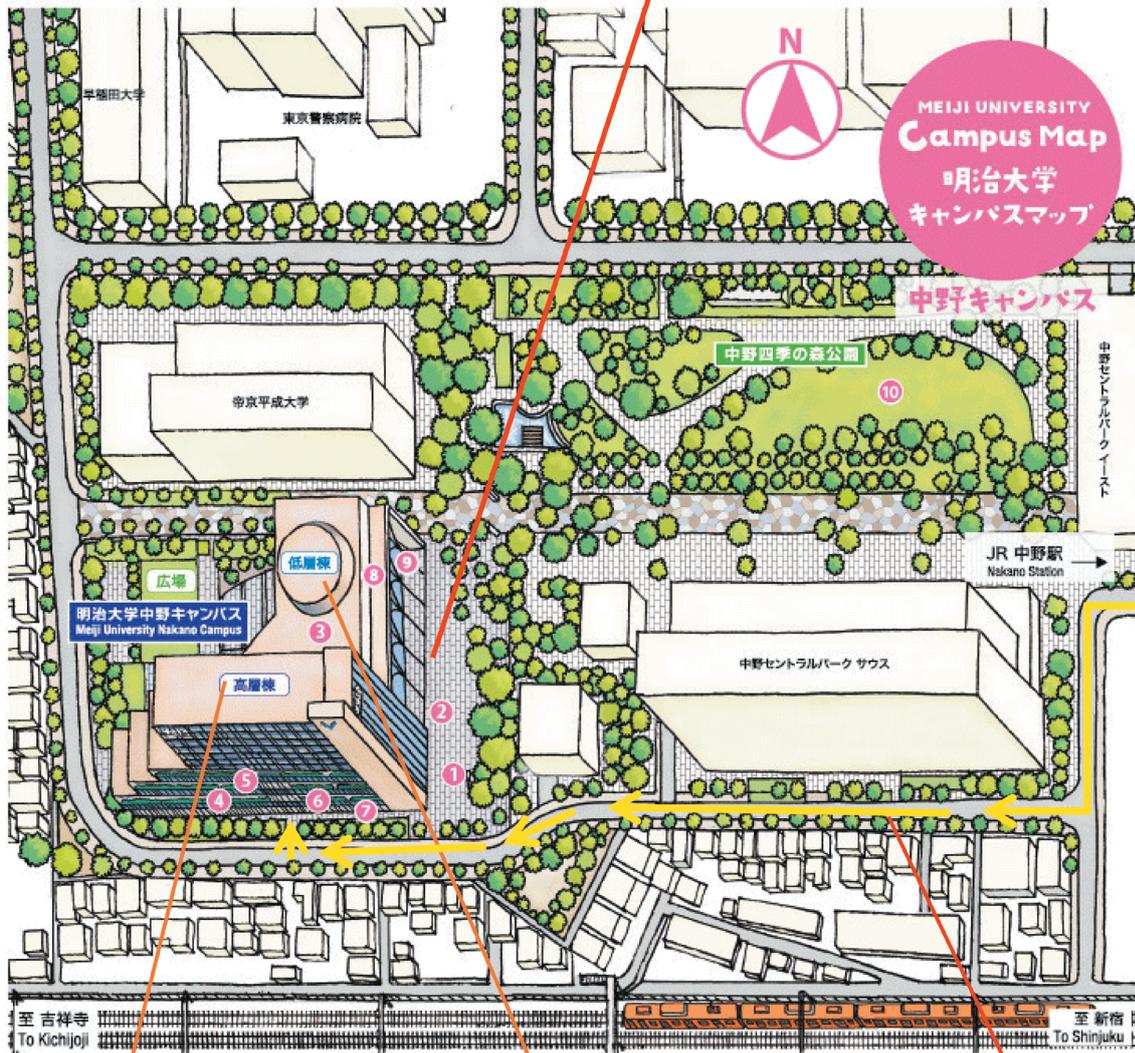


多目的トイレ



AED

校舎内とその周辺は段差が少なく、
フラットな作りになっています



高層棟



- ...1~7・9・11・13 階
(1・5 階の多目的トイレにおむつ替え台設置)

- ...1・6・9 階

低層棟



- ...1 階

- ...図書館、2・5 階

JR 中野駅から ← の道路に
点字ブロックが設置されています

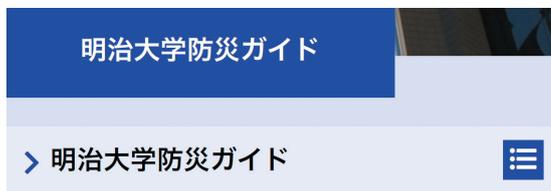
2023.4作成

明治大学防災ガイド

災害（大規模地震、火災）が起こった時の行動や、大学からのお知らせ・安否の確認方法等について記載しています。特に、地震発生時の対応については日頃から見ておくと安心です。

また、当ハンドブックも、この防災ガイドで確認することができます。

<https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html>



災害時の行動

実際に災害が起こった時にどのような行動をとればよいのか。キャンパスごとや自分がいる場所によって変わってきます。

また、災害が起こった時の連絡手段や情報収集はどうすればよいのか。下記を確認してください。



参考文献

- ・立命館大学(2020)「障害学生等の災害時対応ハンドブック」
- ・日本学生支援機構(2015)「教職員のための障害学生修学支援ガイド(平成26年度改訂版)」
- ・東京都福祉局(2024)「区市町村における個別避難計画作成・活用の手引き」
- ・NHK「災害時 障害者のためのサイト」

※このサイトには、避難する際の持ち物や普段からの備えなどが、障がい別・災害別にわかりやすく掲載されています。

<https://www.nhk.or.jp/bousai/shougaisha/index.html>



Memo



第1版 2025年3月発行
発行 明治大学 障がい学生支援推進委員会
事務局 障がい学生支援室
〒101-8301
東京都千代田区神田駿河台1-1
電話 03-3296-4131